

## 顎模型診断について

東大阪市西支部  
平賀 敏人



日常臨床において私は今ある咬合をできるだけ壊さないように診療しています。ただフルブリッジの場合や総義歯の場合はどうしても新たな咬合を与えざるを得ません。そこで我々は骨に基準点を求め模型を診断しています。今回はその診断方法や具体的な応用法についてお話しします。

乳歯はほとんどといってよほど解剖学的歯並びは正常なのです。これが永久歯に生え変わるにつれて、歯並びや高さが変わっていき歯並びが原因で顎の変形が始まり、かみ癖の固定により歯の摩耗や喪失が始まっていきます。フルブリッジ、インプラント、デンチャー、顎関節症の治療等の際にも基本情報として模型を診断しておくことは、治療のみならず咬合崩壊の予防にも役立つことと思います。

### プロフィール

平成元年 大阪大学歯学部卒業  
 平成元年4月 大阪大学歯学部口腔治療科研究生  
 平成4年より 平賀歯科医院勤務  
 平成5年4月 第2解剖学講座に研究生として入局  
 平成10年7月 大阪大学博士（歯学）を取得  
 平成10年11月 父の死去に伴い平賀歯科医院継承  
 現在に至る

大阪大学歯学部第2解剖非常勤講師  
 新大阪歯科衛生士専門学校非常勤講師  
 西日本歯科研究会主催“下顎義歯の吸着コース”  
 講師